

クラウド主権

規制・地政学リスクにどう備えるか
— 3つの実践策



はじめに

コンプライアンス、データ・プライバシー、デジタル主権への要求が高まるなか、インフラストラクチャ／オペレーション (I&O) リーダーは、自社のクラウド戦略をこれらに整合させるよう、かつてないプレッシャーにさらされています。法規制が強化され、地政学的な変化がクラウドの前提を塗り替えるなか、I&O チームは、データの所在地、セキュリティ、アクセスに関する厳格な要請に応えながら、オペレーションの俊敏性を維持しなければなりません。

海外のクラウド・プロバイダーが市場を占め、データ保護法の整備が進み、規制当局の監視が強まるなか、I&O リーダーは主権への対応を最優先課題に据える必要があります。成否を分けるのは、部門横断で協調する戦略を描けるかどうかです。事業部門が求めるスピードとイノベーションを保ちながら、クラウド・オペレーションのあらゆる層にコンプライアンスとプライバシーを組み込む戦略が要ります。そのためには、主権が及ぶ範囲（データ、オペレーション、テクノロジー）を正しく捉え、技術的な統制策を実装し、絶え間ない規制変化に俊敏に適応することが欠かせません。

I&O リーダーは、コンプライアンスと主権を障壁から、信頼、レジリエンス、競争優位性の源泉へと転換できます。本 eBook は、規制が求める水準とクラウドによるイノベーションとの間にあるギャップを埋めるための、実践的な指針です。複雑でリスクの高い環境でも、I&O チームが自信を持って組織をけん引できるよう支援します。

本 eBook で扱う 3 つの問い



現在のクラウド・プラットフォームにおいて、コンプライアンス、プライバシー、**主権に影響を与えている動向**は何か



主権への対応を進めるうえで、**I&O リーダーが直面する最大の課題**は何か



安全でコンプライアンスに適合した、革新的なクラウド・オペレーションを実現するために、**I&O チームが起こせるアクション**は何か

クラウド主権が最優先課題である理由

データ・プライバシー／保存場所（レジデンシ）／主権に関する法律が急増し、変化も速い



規制の
絶え間ない変化



地政学的な
不確実性



AI／データ
倫理



事業の
信頼と評判

国際情勢の変化と海外プロバイダーへの集中により、コンプライアンスとオペレーションに新たなリスクが生じている

信頼を獲得して競争力を維持するために、統制と透明性を自ら示す必要がある

クラウド主権を巡る3つの動向



規制強化の加速と グローバルでの複雑化

各国政府は、データ保護／プライバシー／主権に関する新たな法律の制定を進めています。海外のハイパスケーラーの利用によって法域間で要求が衝突するなか、I&O リーダーは、重複する規制と、データ所在地に対する当局の監視の双方に対処しなければなりません。さらに、ローカルでの処理やアルゴリズムの透明性といった AI 主権の問題が、コンプライアンスを一層複雑にしています。



競争上の差別化要因としての 主権

組織はデジタル主権を活用して、信頼を築き、顧客の期待に応え、市場での存在感を高めています。I&O チームは、データ・レジデンシ、オペレーションの透明性、テクノロジーの独立性といった、主権に関する統制策をクラウド戦略に組み込むことで、コンプライアンスをコスト・センターからビジネス価値の源泉へと転換しています。



自動化された組み込み型 コンプライアンスへとシフト

現代のクラウドの複雑さによって、自動化、コードとしてのインフラストラクチャ (IaC)、コードとしてのポリシー、AI を活用したコンプライアンスの採用が進んでいます。I&O リーダーは、技術的な統制策、継続的なモニタリング、インテリジェントな自動化を通じてコンプライアンスを組み込むことで、主権とプライバシーを担保しています。AI ツールはリスクを検知し、ポリシーの適用を自動化し、リアルタイムのインサイトを提供します。これによりリスクが下がり、イノベーションを進めやすくなります。

I&O リーダーの3つの課題とアクション

課題

アクション

01

規制の複雑さと、地域ごとに分断された規制環境に対処する

各地域でデータ保護、プライバシー、デジタル主権の新法が相次いで施行され、コンプライアンス環境は分断されています。I&O リーダーは、海外のクラウド・プロバイダーや域外適用される規制によってもたらされるリスクを管理しつつ、重複する（場合によっては矛盾する）要件を解釈し、オペレーションに落とし込む必要があります。

統合的なコンプライアンス／主権フレームワークを確立する

部門横断型チーム（IT、セキュリティ、法務、コンプライアンス）を編成し、各国規制の解釈、主権要件の明確化、一元的なコンプライアンス・フレームワークの導入を進めます。リサーチに裏付けられたモデルを活用し、法規制の変化に合わせて整合性を保ちます。すべての関係者への教育を継続的に実施します。

02

主権の統制策とイノベーションを両立させる

データ・レジデンシ、オペレーションの透明性、テクノロジーの独立性をクラウド・オペレーションに組み込むと、イノベーションが鈍化し、複雑さが高まる可能性があります。I&O リーダーは、俊敏性／拡張性のニーズと、主権／プライバシーに関する厳しい要件とのバランスを取る必要があります。

コンプライアンスを自動化してクラウド・オペレーションに組み込む

IaC、コードとしてのポリシー、自動モニタリングを採用して、コンプライアンスと主権に関する統制策をクラウド環境に組み込みます。コンプライアンス・チェックは継続的インテグレーション／継続的デリバリー（CI/CD）パイプラインに統合します。一元的なダッシュボードで、マルチクラウド環境をリアルタイムで可視化します。

03

サードパーティやハイパースケーラーへの依存に伴うリスクを管理する

海外のハイパースケーラーや外部ベンダーに依存すると、組織は規制面や地政学面でのリスクにさらされます。I&O リーダーは、主権に関する要件と事業継続性の両立も図らなければなりません。コンプライアンス対応によってレジリエンスや復旧能力が損なわれないことが前提です。

クラウド・パートナーシップを多角化し、主権を実現するテクノロジーに投資する

可能な限り、現地または地域内の信頼できるクラウド・プロバイダーを評価して提携します。外部鍵管理、コンフィデンシャル・コンピューティング、監査機能の強化といったテクノロジーに投資し、プロバイダーの所在地によらずデータとオペレーションに対する統制を維持します。

01 アクション

統合的なコンプライアンス／主権フレームワークを確立する

強固なクラウド主権戦略には、IT／セキュリティ／法務／コンプライアンス各部門の緊密な連携が欠かせません。I&O リーダーは関係部門の取り組みを取りまとめ、各国規制を解釈し、主権要件を定義し、変化し続ける規制に確実に対応できる統制策をオペレーションに落とし込む必要があります。この統合的なアプローチによって、複雑な規制環境におけるリスクを最小限に抑え、ビジネスの俊敏性を保ち、データ・プライバシーを守ることができます。

規制要件は地域ごとに異なり、リスク、オペレーションの透明性、テクノロジーの独立性に対する関係者の見方も一様ではありません。この課題を乗り越えるには、一元的なコンプライアンス・フレームワークが要ります。全部門の意見を取り込み、期待値を明確に伝え、新たな法規制に追隨できるフレームワークです。

部門横断型チームと統合的なコンプライアンス・モデルが、クラウド主権の堅固な基盤になります。I&O リーダーには、規制変化への先回りの対応、分断の解消、顧客・規制当局との信頼構築が求められます。それが、安全でレジリエントかつ革新的なクラウド・オペレーションを支えます。

ソブリン・クラウド戦略に欠かせない特性



出典：Gartner

02 アクション コンプライアンスを自動化してクラウド・オペレーションに組み込む

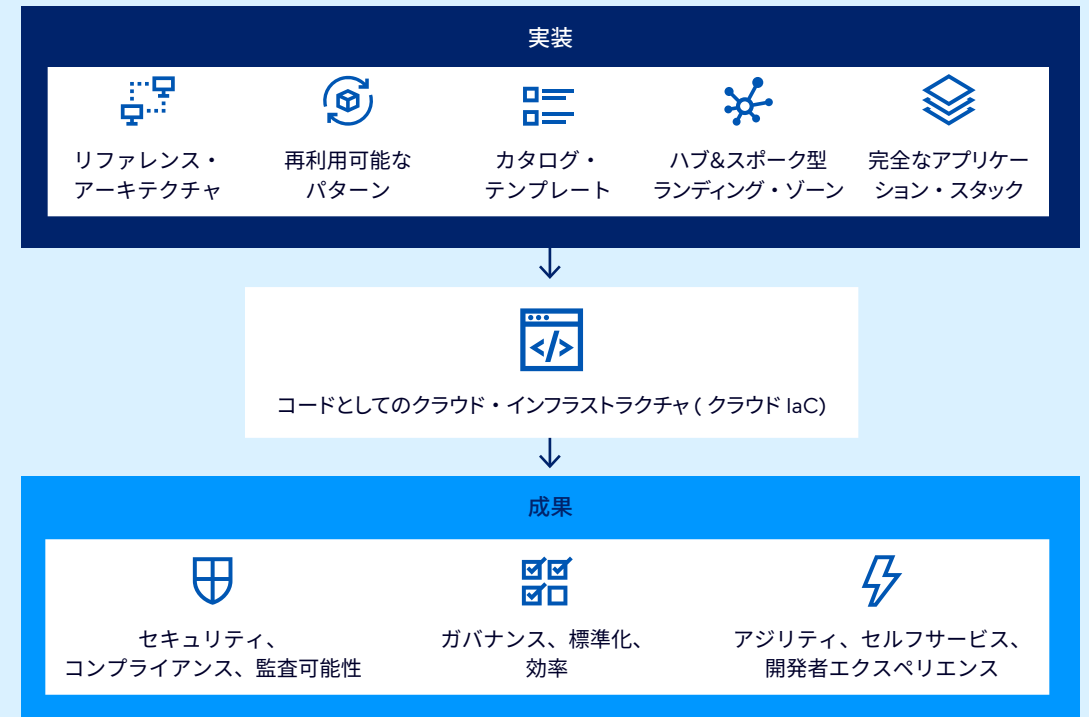
イノベーションと主権の統制策を両立させるには、規制要件をクラウド・オペレーションに直接組み込み、手作業に依存したコンプライアンス・プロセスから脱却する必要があります。

自動化、IaC、コードとしてのポリシー、自動モニタリングによって、規模やクラウド・プロバイダーを問わず、すべての導入環境でコンプライアンスと主権の要件を一貫して適用できます。

このアプローチなら、俊敏性と統制を両立できます。継続的インテグレーション／継続的デリバリー (CI/CD) パイプラインでの自動コンプライアンス・チェック、リアルタイム・モニタリングの一元的なダッシュボード、継続的な監査機能により、リスクを先回りして特定し、是正できます。統制策を組み込むことで、ヒューマン・エラーが減り、導入サイクルが速まり、主権／プライバシー要件が標準の状態を満たされます。

I&O リーダーはコンプライアンスをクラウド・ライフサイクルに組み込むことで、規制面のリスクとオペレーションの複雑さを最小限に抑えつつ、チームによる迅速なイノベーションを支援できます。

クラウド IaC を活用して望ましい成果を促進する



出典：Gartner

03 アクション クラウド・パートナーシップを多角化し、主権を実現するテクノロジーに投資する

サードパーティやハイパースケーラーへの依存リスクの管理には、オペレーションの統制と規制コンプライアンスを優先する、先を見越した戦略が要ります。I&O リーダーは、現地または地域内の信頼できるプロバイダーを活用し、主権に関する要件に合った戦略的アライアンスを形成することで、クラウド・パートナーシップを多角化する機会を検討すべきです。ただし、プロバイダーを増やすと、クラウドのスプロール化（無秩序な拡大）と管理の複雑化を招く恐れもあります。

主権を実現するテクノロジー（外部鍵管理、コンフィデンシャル・コンピューティング、高度な監査ツール）に投資することで、組織はクラウド・ワークロードの場所に関係なく、機密データや重要なオペレーションを統制できるようになります。これらのテクノロジーは、外国政府によるデータへのアクセス、サービス停止、規制要件の変化に伴うリスクを抑えます。

多角的なプロバイダー戦略と最高水準の技術的統制を組み合わせれば、依存リスクを抑え、オペレーションのレジリエンスを高め、現在と将来の主権要件に確実に対応できます。同時に、プロバイダーの乱立や統合の負荷にも目を配る必要があります。

オペレーションの主権を実現するための解決策



出典：Gartner

Gartner のインサイト



新興テクノロジーのエグゼクティブ・ブリーフィング：デジタル主権 ↗

これからの AI インフラ：データ主権、コスト最適化、パフォーマンスを
考慮したアーキテクチャの検討 ↗

ソブリン・クラウド調達 の 7 つのステップ ↗

ソブリン AI：多極化する世界に向けたインフラ戦略 ↗

将来的にテクノロジーのレジリエンスとビジネス成果を実現するためには、
デジタル主権が必要である ↗

インフラストラクチャ近代化戦略：プラットフォームへの進化 ↗

既成概念を打ち破る：デジタル都市国家と AI 勢力圏の中で CIO は
どう舵取りすべきか ↗

日本企業の CIO は主権を追求してエージェント型 AI を優先させよ ↗

* ご契約内容に応じて閲覧いただけるドキュメントです。Gartner のリサーチをはじめとするご希望の情報をご覧いただくには、[こちらからお問い合わせください](#)。
契約されているサービスにより本ドキュメントを閲覧いただけない場合もございますので、ご了承ください。

実用的で客観的なインサイト

I&O リーダーのためのリソース／ツールを無償でご利用いただけます。

Webinar



ランサムウェア対策：事業停止リスクに備えるバックアップの再定義と復旧戦略

バックアップから復旧が至らないなどの事業再開を阻まれたケースから学ぶ、停止期間を最短化するための、AI 駆動型検知や不変ボールドなど具体的なバックアップ関連テクノロジーと実践的な復旧戦略を提言します。

今すぐ視聴

Tool



Accelerators

戦略目標を迅速に達成することを目的として、ダウンロード可能なテンプレート、ケーススタディ、短時間で学べるレッスンなどが組み合わされたセルフ・サービス・ツールです。

詳細を見る（英語）

Roadmap



IT の価値創出を加速するインフラ／運用戦略

AI 活用、クラウド・コストの最適化で実現するレジリエントなインフラ構築に向けたロードマップ。I&O を「運用部門」から、IT からのビジネス価値創出を支える実行パートナーへ進化させるための要点を整理します。

詳細を見る

Tool



IT Score for Infrastructure and IT Operations

インフラストラクチャ／IT オペレーションの有能なリーダーとして差別化するために、パフォーマンスをベンチマーク評価し、主要なアクションを策定する手段を提供します。

詳細を見る（英語）

Gartner のお客様は、クライアント・ポータルでさらに多くのリソースをご利用いただけます。[ログイン](#) ↗

Connect with us

Gartner は、経営幹部およびそのチームに対し、実行可能かつ客観的なビジネスおよびテクノロジーのインサイトを提供します。Gartner のエキスパートによるガイダンスやツールは、組織の重要な課題について、迅速で優れた意思決定と大きな成果の創出を可能にします。

Gartner のサービスに関するお問い合わせ

I&O リーダーを成功に導く Gartner のサービス
gartner.co.jp/ja/infrastructure-and-it-operations-leaders

最新のインサイトをご確認ください



Gartner のコンファレンスにご参加ください
[コンファレンスの最新情報を見る](#)